

新宮山彦ぐるーぷ第1910回  
**深仙宿小屋LED交換と関伽坂尾根巡視及び  
 持経宿トイレ拡幅並びに持経宿・千年檜・平治宿の迎春準備**

◇実施日；2016年12月17日(土)～18日(日)

◇参加者；梶野照雄(17～18日)、川島 功、生熊敏男、児嶋道夫、濱野兼吉、山川治雄、畑林清子(以上18日)。7名。

12月17日(土) 晴れ・強風

深仙宿小屋のLEDが切れていることを青木さんから聞き「年内に直してや！」と念押しされたので、新しいLED2個を持って交換に行った。午前9時35分、前鬼小仲坊を出発。5分ほど歩くと積雪が現れた。



薄つすらと積雪が



二つ岩



氷に覆われた岩

二つ岩で休憩して2カ所目の支沢越えに鎖の付けられた場所で一瞬躊躇する。流水が氷ついて岩の表面をすべて覆っている。

アイゼンを出そうか考えたが、よく観察すると氷の着いていない足を置けそうな場所が3カ所あり、鎖もしっかりしている。時間をかけて慎重に通過した。下りはアイゼンが必要と考え、深仙宿小屋を出るときにアイゼンをザックの一番上に入れ直したが、日中の日差しで下山時には殆ど溶けていた。

太古の辻までの道は、青木さんの笹刈のお陰で十分な幅員が確保されて歩きやすくなっていた。積雪は平均3cm、深い所で7～8cmあり、岩の隙間に足を落とさないよう注意して歩いた。



太古の辻



深仙宿到着



LED3個切れていた

太古の辻からは北西の季節風が強く、飛ばされた樹氷が顔に当たって痛い。深仙宿小屋に到着、ザックを下ろして滝頂堂から脚立を出す。スイッチを入れてみると、2個切れていると聞いていたがいつのまにか3個に増えていた。手早く食事を済ませて作業にかかる。用意してきた2個の交換は15分で完了。

残りの1個は来春に交換予定。小屋内の温度はマイナス5℃だった。脚立をお堂に戻し、小屋に戻ろうとしてテントが一張あるのに気付いた。



交換終了



テントがあった



関伽坂尾根下降口と鎖

人の気配はしなかったもので、釈迦ヶ岳へ行ったのかと思う。こんなお天気でも変わり者はいるものだと感心した。

太古の辻まで順調に下り、時間的な余裕もあるので、巡視もかねて関伽坂尾根を下ることにした。

最初の長い鎖でちよつと手こずる。落葉の上に雪が積もって、滑りやすいことこの上ない、ステップが無いので靴をけりこんだり、横向きにしたりで何とか降りることができた。冬場にこのルートは、あまりお勧めできない。



小枝が邪魔をする



テープを探して



樹間に釈迦ヶ岳

下りきった鞍部まではピンクのテープがふんだんに打たれていて、迷いようが無いほどだったが、鞍部からP1185mへの登りにかけて、ピンクのテープはガクンと減り、注意していないと尾根を外しそうになる。

枯れ枝はたくさん落ちていたが、障害になるほどでは無かった。一カ所だけ、アセビと石楠花の小枝が3mほど道を塞いでいるところがあつたが、かき分けて通過可能だった。

この先もテープは少なく、広い尾根筋のため、方向を確認しながらテープを追って関伽坂峠にたどり着いた。

関伽坂峠から小仲坊までの道は以前に比べると相当荒れている。途中の沢越えの一ヶ所では、上部からの落石多数。通過したすぐ後で、コブシ大の石が2つ落ちてきた。

16時15分、小仲坊に到着。作業中の五鬼助さんの横に座って休憩しながらお話しする。大日岳の行場に注意書きを設置したことをお知らせして、写真も見えていただいた。20分ほどおしゃべりして林道ゲートまで一気に下りた。



関伽坂峠



作業中の五鬼助さん



ゲート到着

ライトは使わずに車まで戻れたが、靴とズボンを履き替えている間に真つ暗になり、池原スポーツ公園の「やすらぎ」に宿泊。尚、今回は池原泊で時間的な余裕があったので、小仲坊から太古の辻までの木製階段を数えてみた。正確ではないが665段あつたと思う。

### 行動タイム

9:33前鬼・小仲坊9:35↓10:55二ノ岩11:00↓12:05太古の辻12:08↓12:39深仙宿13:20↓13:43太古の辻↓14:28二ノ岩↓15:46関伽坂峠↓16:15小仲坊16:35↓前鬼林道ゲート17:07↓「やすらぎ」泊。  
(記：梶野)

### 12月18日(日) 快晴・ほぼ無風

宿泊したので朝5時に起きる必要が無く、7時過ぎに起きだしてゆっくり食事する。8時過ぎに荷物を持って車に戻ると、まるで雪が降ったかのように霜で真つ白になっていた。

スポーツ公園の駐車場まで行き、霜が解けるのを待っていると

新宮組が到着。

新宮組は7時15分に出発。沖崎車運転の生熊さんが、児嶋、畑林、川島、山川さんを順に乗せて、池原公園で梶野さんと合流。

梶野車(児嶋氏同乗)と沖崎車運転の生熊氏で持経宿へ向かう。

先日、青木さんが2日に亘って林道の落石除去をしてくれたそうだが、まったく其の跡は無い。落石多数でゲートまでに6回程下車して石を取り除いた

先頭を走る梶野車に同乗した児嶋さん達は、しょっちゅう車を止めて落石を除去して下さり、ご苦労さん！

先日降った雪は所々に残っているが、まだ通行には影響はない。私は車中で山川さんに「テンマウンテンの会」の名称について伺う。年間に10回山に登る会という事らしい。会も間もなく20年の区切りで解散するので、それを見越して山彦に協力してくれるとの事、頼もしい協力者を得て心強いことである。

山川さん達は、七里御浜の防潮林の下刈り管理を、森林管理署からの委託を受けてボランティアで管理している。



霜で真っ白に



持経宿到着



千年檜・平治宿へ出発

梶野車は、今回もスペアタイヤ2本積み、タイヤはスタッドレ

スに交換したので、ノーマルタイヤに比べて少しは強いと思うが、慎重に走行し、パンクせずに何とか持経宿に到着。行きはよいよい帰りは何とやら、と言われ帰り道が心配になる。

持経宿で川島代表より本日の作業の指示を受け、トイレの拡張作業を行う梶野さんを残し、鏡餅や注連縄などの迎春供え物と千年檜に注連縄を張る長梯子を準備して、千年檜・千年檜祠、平治宿班が出発。

いつもは手がかじかんで千年檜の注連縄の張り替えには苦労するが、今日は風もなく雲ひとつない上気分で気温も高い。

長梯子を千年檜に立掛けて川島さんが古い注連縄を外す。今年はお灯祭りの荒縄を注連縄にする。生熊氏が白布で正規な形に作製した紙垂(シデ)は、注連縄に奇数の9本を結わえて注連縄を完成させ、長枝で持ち上げて均一な高さになるように、千年檜に注連縄を巻き締め付けて張替える。

畑林さんは、千年檜祠の供え物を取替え、新しくミヤマシキビをさす。冬は凍結して花立てが割れないように、花立てには水を入れず深山檜だけをさす。私はお堂の賽銭570円を回収する。



千年檜祠前



紙垂(シデ)を付ける



新注連縄に張替える

千年檜の注連縄を張り終えた川島・児嶋・濱野・山川の4名は、平治宿へ。

生熊・畑林さんは、千年檜祠の迎春準備を終え、持経宿に戻って作業となった。  
(記 梶野・濱野)

トイレを前側へ10cm拡張の改修は、まずドアを外す事から始めた。ドアを取付けていたネジは、どれも錆び付いていてネジ山がつぶれてドライバーでは戻せず、発電機を起動してドリルで先端を削って外した。

中央の増設柱に穴を開け終わった頃に、生熊、畑林清さんが戻って来られて、生熊さんが手伝って下さる



ドアを外す

カビだらけのドア

増設柱に穴あけ

左右の柱(10cm色)に各柱3箇所穴あけや「六角コーチスクリユー(径12×150mm)」ねじ込み締付けのお手伝いをして頂いた。柱3本を取付け終わって昼前になり、不動堂内の掃除と正月飾りとお供え(鏡餅・御菓子・吉開賢淳師からの海苔・芹沢清実さんからの大吟醸酒)されている畑林さんにも声がけして昼食にする。池原で買ったカレーをレンジでチンして温めた。生熊さんのお弁当は耐熱容器だったのでこれもチン。畑林さんはアルミのお弁当箱だったのでチン出来ず。次回からは耐熱容器にするそうだ。

食後作業再開、ドアをはめ込んでみると、歪みがあり上部が少し狭くて入りづらい。電気鉋を車から出して5mm程柱の上部を削った。丁番のくぼみやドアラッチの穴はトリマーで削ったので、ノミも持って来たが使わずに済んだ。



柱をボルト締付け

3本取付け完了

ドアも取付け

細かい作業の間に、生熊さんは便槽の汲み出しをやってください。ドア取付け前に、一杯付いていた黒カビも帚できれいに掃き落として下さる。

ドアラッチの穴あけ中に無線機から声が聞こえた。発電機を止めて応答すると「もうすぐ千年檜」と返答があった。古い注連縄の回収を依頼して再び発電機を始動した。

畑林さんが掃除機を使うとの事で、しばし電動工具はお休み、充電ドライバーでドアの丁番を取付けた。ドアノッチの金具も取付け終わったとほぼ同時に平治宿班が帰着。

ドアの隙間が気になったので、宿内梁上の胴縁を一本下ろして、ドアストッパーも兼ねて内側に取付けた。

前側に10cm拡張の結果、便座に座っても脚がつかえなくなり使い勝手が良くなった。  
(記 梶野)

児嶋さんは、平治宿のストーブ底へ敷く断熱板を耐火セメントで作製して、取り替えるため背中の背負子に乗せて運ぶ。

冬枯れの樹間から振り返れば、釈迦ヶ岳や孔雀、又劔山と大台ヶ原がきれいに見える。空気が澄んで風もなく絶好の天気である。今朝テレビで樹齢500年のミズナラの巨木を写していた。平治宿への稜線沿いにあるミズナラも幹廻り5・4m、それに負けず劣らず素晴らしい風格である。

平治宿小屋には10時55分に到着。

児嶋さんはストーブの断熱板の取替えを、私達は便所のドラム缶の水を抜く作業へ。ドラム缶には5〜6cmの氷が張っていて、山川さんがツルハシで氷を割りバケツで氷片と水を汲み出す。しかしドラム缶には、側面から内側にも、底からも氷が張り付いて、小屋の軒下に運ぶのに大変手間取った。



積雪した平治宿前

ドラム缶・約6cm氷結

氷と水を汲み出す

次いで小屋屋根からの貯水タンクの薄い氷を割り水も抜き、蛇口水栓を取外し宿内の棚上に保管。

小屋内の事は児嶋、川島両氏に任せ、山川さんと私は水場に向かう。新雪の中に今朝誰かが水を汲みに下った足跡がある。

水場は水が順調に流れ込んでいて、周辺は凍結しているが、貯水槽は温かいのだろうか、シーボルトミミズが数え切れないほど

入っている。今年3回ここに来たが今回はムチャクチャ多い。夏も秋も数匹程度であった。貯水槽の水をラーメン鍋で汲み出し、ミミズも全部取り出す。

山川さんは持参したトラロープで、滑りそうな箇所安全確保の為にロープを張って行く。夏場はそうでもないが冬場凍結するとこのロープが大変役立つ事が分かる。私も山川さんからロープをいただき1箇所ロープを張る。これで冬場の水汲みは、随分助かる事だろうと確信する。12時前に小屋に戻り昼食。



水場径にトラロープ張る

水場作業班戻る

この間に川島は、玄関にしめ飾り、宿内板壁に謹賀新年の紙を貼り、テーブル上に鏡餅・清酒を供え、平成29年度のカレンダーに貼り替える。

ストーブのおかげで随分温かい。いつものように児嶋さんの食後のコーヒーが出る。山川さんの持参したテルモスは昨夜お湯を入れたが全然冷めていないとの事、流石本物は違ふと感心する。

宿内は曆の張り替えや御幹やお供えが揃い迎春準備がすっかり出来上がっている。志納箱の志納金を回収する。

戸締まりを済ませ記念写真を撮って持経に向う。途中、山川さんよりハリギリの木を見つけて、新芽は山菜として最高であると教えていただく。



玄関注連飾り



宿内の鏡餅とお神酒



平治宿班ハイポーズ

持経宿小屋に到着。不動堂の迎春飾りは終えていて、持経宿玄関にしめ飾りを付ける。又、トイレ拡幅後の掃き掃除が終了作業終了。

不動堂にて生熊導師により本年最後の勤行。今年一年無事に作業が終了した事に感謝・報告して、私は賽銭の回収を行う。

一同小屋に戻り畑林さんの差し入れのアップルパイと児嶋さんのコーヒーを御馳走になる。



不動堂正月飾り



本年最後の勤行



パイ・とコーヒーで休憩

吉開賢淳師(玉岡さん宅へ送付)からの海苔は、不動堂にお供えし勤行後に、お下がりとして参加者に配る。小屋前で記念撮影をして池原公園へ向かう。今回は車に予備のタイヤ2本も準備しての梶野車も無事池原公園に到着し解散。好天に恵まれ寒くもなく絶好の行事日和であった。尚、持経宿・平治宿に非常食用のラーメン各3個とガスカートリッジ(平治宿2本、持経宿1本)を補充した。



本日の参加者

### 行動タイム

池原スポーツ公園 8:40→9:30 持経宿 9:45→9:55 千年檜 10:15→10:55 平治宿 12:55→13:30 千年檜→13:40 持経宿 14:40→15:25 池原スポーツ公園。

### 寄贈者

- ・ 吉開賢淳；海苔1箱(10束)。
- ・ 山川治雄；トラロップ(25m)。
- ・ 畑林清子；アップルパイ+瓶コーヒー。
- ・ 梶野照雄；ドア丁番(銅製)4枚。

(写真：梶野・川島・濱野) 記 濱野)